

(第2号様式)

宮 工 第 2543 号
令和6年 3月 20 日

沖縄県教育委員会教育長 殿

沖縄県立宮古工業高等学校
校長 真喜屋 強史
(公印省略)

令和5年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

令和5年12月12日付け教県第1744号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

記

1 日時、場所、出席状況等

第1回	日時	令和5年7月18日	場所	管理棟 2F 会議室	出席 状況	学校評議員4名参加
第2回	日時	令和5年12月21日	場所	管理棟 2F 会議室	出席 状況	学校評議員3名参加、1名欠席
第3回	日時	令和6年3月14日	場所	管理棟 2F 会議室	出席 状況	学校評議員2名参加、2名欠席

2 学校評議員に求めた事項

第1回の会議において、学校長が掲げた今年度の教育目標や学校経営方針とともに本校の抱える学校課題を共有し課題解決に向けての協力や意見を求めた。令和3年度から「恩返しプロジェクト」等を通して、地域の方々へ工業高校の教育活動を積極的に発信しており、生徒数も増加してきているが、未だ本校の優先課題は空き定員の解消である。今後も宮古地区の唯一の工業高として理解をしてもらえるよう本校の教育活動の発信を続けていく。また、入学した生徒達の資格取得や各種大会への参加とともに、令和5年度より「サポートルーム」も本格的運営をスタートさせ、個々の生徒に合わせた教育活動・支援を充実させている。これまでの本校の情報発信や生徒支援・進路指導体制についても、ぜひ評議員の方々のお力添えとご教示をを頂戴し、今後に活かしていきたいと考えている。

3 学校評議員の意見

・地域に恩返しプロジェクトは、地域から感謝の声がありました。マスコミを活用することで入学者増も期待できると思います。
・職員が働きやすい環境整備のために、働き方改革の取組は行っていますか。
・勤怠状況が昨年度より悪くなっている。原因を調査して対策や改善を図るべきである。
・学校評価アンケートについて、保護者からの返答が少ないと感じました。自宅へ郵送するなど対策が必要では。

4 学校運営に反映した事項

・「宮古島まもる君」修繕活動では、地元のマスコミだけでなく、沖縄本島の関係者も取材のため来島。NHKでは全国放送でも取り上げられ、県外からの励ましの連絡等もあった。今後も積極的に発信していきたい。
・11月より清掃を毎日ではなく、週3回(月・水・金)だけとし、職員が放課後、生徒対応等に使える時間を増やした。
・一部の生徒の勤怠状況が極端に悪い現状があり、その生徒達へ組織的に教育相談等も実施しながら丁寧に対応した。

5 課題その他

・令和3年度より、学校の広報活動を抜本的に改革し、生徒ができることを母校や地域へ恩返しすることで工業高校で学べることや身につける事ができる資格や技術を実際に見てもらう事に力点をおいた広報活動を行ってきている。今後も更に推し進め、より工業高校の取組を理解してもらえるようプロジェクトを進めていきたい。昨年に引き続き、部活動の活性化が課題である。合同チームによる出場などを余儀なくされている部もあり、部活動の活性化と職員の働き方改革をバランスを取りながら、学校の活性化を図っていく必要がある。「サポートルーム」も開所し、生徒達が気軽に相談できる場所も整備した。今後は、生徒一人一人への親身な対応により、問題行動や不登校等の未然防止に取り組んでいく。離島勤務3年で職員が入れ替わるために引継ぎや知識、技術の定着を図ることも課題である。